

JUNGLIDO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人／浅田幸作
 発行所／滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所 2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日／平成 25 年 4 月 20 日
 編集人／広報部会・山田 勲
 印刷／株式会社 サンエムカラー

URL:http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou
 E-mail:zeze-h-dousokai@poem.ocn.ne.jp

 VOL.30

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 =  = 2013

巻頭エッセー	1
平成 25 年度総会のお知らせ	1
校歌の変遷(四)	2
膳所入学のころ	2
同窓会事業のご案内	2
石鹿文庫	2
同窓会費納入のお願い	2
卓球同友会	3
ヨットOB・OG総会	3
陸友会の活動	3
膳所高校吹奏楽班合同演奏会	3
周年同窓会報告	4・5・6
記念同窓会報告	6・7
膳所高NEWS	8
会計報告・総会提出議案・同窓会役員・別紙	

巻頭エッセー

絆と縁、天啓と天命 — 大震災を経験して —

昭和46年卒(膳所高19回)
 岩手大学長 藤井 克己



東日本大震災から早くも2年が経ちました。特に最初の1か月は時の歩みが遅く感じられたものです。茫然自失とする中、即時的な対応を迫られたからでしょうか。と同時に、多くのことを気付かされました。人とのつながり、ネットワークの有難さ、確かな情報伝達的重要性、その一方で停電の夜空の星の輝き、自然の雄大さと、これが牙を剥いたときの酷さ...などです。

3月末には、沿岸の実家に帰省中の学生1名が津波で帰らぬ人となったことが分かり、大学は悲嘆にくれました。当人の両親も犠牲となり農学部卒業を控えた姉と高校生の妹が残されたのです。卒業式と入学式も中止、授業開始もままならない中、4月末に、みちのくの遅い春がやってきました。キャンパスは桜をはじめ花が咲き誇り緑にあふれるのですが何が足りません。それは学生の声、ざわめきでした。楽器を奏でる音、ボールを蹴る音、これらのすべてが大学の活動の柱を成していることを再認識させられたのです。

膳所高校を終えて東京の大学に進み、岩手大学に職を得たのが今から28年前、何の因果でこういう羽目に...と思うと同時に、何やら天命のようなものを感じていたことも事実です。

私が初めて岩手、盛岡を意識したのは高校1年生、宮澤賢治の詩を現代国語の教科書で学んだ時でした。最愛の妹トシを病で失う朝を歌った「永訣の朝」は、それまで童話作家としか知らなかった賢治像を覆すものでした。繰り返される「あめゆじゅとてちてけんじや」雨雪をとってきて下さいという呪文のような言葉は、もの悲しく暗い北国の

新入会員



「遵義・力行」

平成25年3月卒業 國松拓実

私たち平成24年度卒業生一同は、3月1日の卒業式をもちまして膳所高校同窓会に入会いたしました。今思い返すと、膳所高校で過ごした3年間はとても充実して、その全ての経験が自分の糧となりました。そして3年間の高校生活を経て、膳所高校が同窓会として掲げる「遵義力行」という言葉に、3年前と今では全く違う印象を持つようになったことを実感しています。

遵義：誠実な心で真理と正義を追求し人類の未来に貢献しよう。力行：自主自立を尊び心身を鍛え高い理想に向かい、「遵義・力行」にはこのような言葉が添えられていきます。真理と正義は簡単に言い換える「〇〇はこうである、こうすることがよい」となりませんが、それらは立場や考え方の視点の方向で大きく変わるものであると、特にこの3年間を通して大きく実感しました。同時にそれらを追求するにあたって、自分は知らないことが多すぎると感じるように

冬のイメージとともに深く刻まれたのです。そして目に留まったのが盛岡高等学校卒業や農村指導者の文字。『そうか農学か？』私が農学を意識した原点ともいえます。

岩手にちなんだという点では、3年生で学んだ柳田國男の清光館史も不思議な余韻の残るものでした。岩手県北沿岸の寒村に夏の調査の折、宿を求めた清光館、数年後に再訪してみると主人の海難事故により一家離散して宿は跡形もなかったという随想。ここで紹介される盆踊り、なにより「やたら」は現在もその謂れの定まらぬ奇祭なのです。

膳所高校在学当時の筑摩書房版現代国語教科書は実に濃密な教材でした。定番ともいえる山月記(中島敦)やこころ(夏目漱石)は当然として、上記のように手加減しない力作が揃っていました。そして良き師のもと四十数名が斉一に真剣勝負のやり取りをする授業は、現代国語のみならず教室学習の極みに達していたといえます。高校時代という多感で可塑性に富む時期であるだけに、学んだことは天啓のような示唆に溢れるものでした。逆に紛争後の荒れて散漫な大学教育には幻滅させられたものです。

今からちょうど四十年前、近江商人が盛岡に招かれました。盛岡に居城を定めた南部藩にとって、農業・鉱業は自力で振興できても商業については専門家の知識が必要だったのです。太平洋岸から盛岡に入った近江商人は以後、ここに居を定め経済の中核をなしました。時を経て震災の50日後、膳所高校の文字が地元紙を飾りました。宮古の高校にヨットを寄贈すべく延々陸路を搬送してきたというのです。後輩たちやるじゃないかと誇らしく思うとともに、縁というものに思いをはせていました。今後とも母校との絆と縁、そこで学び得た経験を糧に、大学の運営と地域の復興に尽力していきたいと思っています。

なりました。

「文武両道に加えて他にもたくさんのご経験を、謙虚さと適度な素直さを持つて物事に接すると、性格が丸くなった」とおっしゃられた言葉が印象に残っています。物事を最も客観的な視点から見つめるのに必要な様々な考え方と確かな知識、それらを持つためには多くの物事に対して素直に、批判的に、深く接することが大切です。そのためにも、自主自立し主体的でなければなりません。そしてこれらこそ膳所高校の掲げる「遵義・力行」そのものでないかと思えます。思い起こせば膳所高校での3年間は、この「遵義・力行」に沿った経験の機会をたくさん与えていただいたと、今更ながら実感しています。

たださんの経験をもとに、様々な価値観に柔軟に対応できる丸さこそが、「遵義」の掲げる「誠実な心」なのだと思えます。これからも多くのことを学び、自分が社会においてどのような役割を果たせるかをじっくりと考え、「遵義力行」に沿いながら精進していきたいと思えます。

最後に、同窓会入会にあたってまだまだ未熟な私たちが、先輩方からもたくさんのご指導を願っています。

本年度の総会は5月19日(日) 平成25年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成25年度定例総会を左記の要領により開催いたします。

70周年記念同窓会をはじめ多数の学年の周年同窓会が盛会に行われています。成人同窓会、関東膳所高校同窓会も定着してきました。

本年度の総会に同窓会員の皆様方多数のご出席をお願い申し上げます。

平成二十五年度 定例総会

- 日時 平成25年5月19日(日) 午前10時開会 (午前9時30分 受付開始)
- 場所 琵琶湖ホテル 3階瑠璃の間 大津市浜町4-40 電話 077(524) 7111
- 感謝状贈呈 本校教職10年勤務者
- 議事 一、平成24年度会務報告・部会報告 一、平成24年度会計報告・会計監査報告 一、役員改選について 一、平成25年度事業計画、予算審議 一、その他
- 講演 「国際宇宙ステーション計画と日の丸輸送船」

講師のプロフィール



講師 小鍵 幸雄 氏 (膳所高19回 昭和46年卒業) 宇宙航空研究開発機構HTVプロジェクトマネージャ

1952年 滋賀県大津市仰木生まれ
 1971年 滋賀県立膳所高等学校卒業
 1975年 東京大学工学部航空系卒業
 1980年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻
 博士課程修了(工学博士)
 1993年 宇宙開発事業団山口ケット開発センター試験設備室長
 1994年 同 宇宙ステーショングループ主任開発部長
 2003年 財 宇宙環境利用推進センター 宇宙実験推進部長
 2005年 宇宙開発事業団セントリフュージプロジェクトチームサブマネージャ
 2006年 宇宙航空研究開発機構HTVプロジェクトチームサブマネージャ
 2011年 宇宙航空研究開発機構HTVプロジェクトマネージャ

講演の主旨

日米欧露、加が参加して実施している国際共同プログラムである国際宇宙ステーション(ISS)に結合された日本の実験モジュール「きぼう」及び、日本が開発した大型無人輸送船「こうのとり」の果たしてきた役割を紹介するとともに、新たな有人宇宙活動等将来に向けた計画について概説する。

主な受賞歴

- 2010年 文部科学省ナイスステップな研究者受賞
- 2011年 航空宇宙学会技術賞受賞

校歌の変遷について(四)

昭和27年4月に高等学校の再編成があり、校名は大津高校から大津東高校(学制改革前の膳所中学と市内の高等女学校の一部が集まった形)と改称されました。

それまでの校歌が西校舎と同じ校歌を持つことになること、「字余り」では歌いにくいことなど、生徒から新しい校歌作成の強い希望が出てきました。こうしたことから、同年7月に、学校の企画課から校歌詞募集をされました。翌年9月にも募集はありましたが、優秀応募作はありませんでした。

29年1月、学校の校歌選定委員会が委員の先生方が基本路線(①学外の人には頼まず校内でつくる、②今後も校名が変更されてもいよう校名は織り込まない)とし、たたき台を出され、5月には校歌の歌詞を制定されました。歌詞は決定されましたが、曲はできておらず、夏頃に生徒からこの応募がありました。応募作品はふさわしくなく、校歌選定委員会の委員に頼まりました。

30年の後半に歌詞、曲が職員会議に発表されました。当初27年に生徒間から校歌を求めた声が上がってきて、作曲まで完成するまで4年越しの宿願が叶いました。

大津東高等学校校歌

一節
 汎濠の湖 日に映えて
 霊峰青し 比良比叡
 遙けく高き 白雲に
 聳えて立てる 学び舎は
 われらが永久の 故郷ぞ

二節
 遵義の桜 咲く庭に
 いざや鍛へむ わが力
 石虎城址 松籟の
 響かふ窓に 書読みて
 ともに啓かむ わが智徳

三節
 良友ここに 盟ひては
 久遠の理想 失はじ
 星霜三たび 刻苦して
 不壊の操の いや固く
 古人の功業 継ぎゆかむ

(校歌の大意)
 本校が古い伝統があるという意味があり、文語体の七五調定型律が採用され、全体に古風な感じを与えています。

の校風、三節では伝統を受け継ぎ、未来を築く決意を歌っています。

このような時期、同窓会を中心に校名を「長い伝統を誇る由緒あるところ」の「膳所」高校に改称してほしいとの声があり、31年4月から校名は変更されました。

この校歌はその時から、今もなお校歌として歌い継がれています。なお、最初に30年10月の体育祭で斉唱されました。

本校の校歌について、中日新聞の「校歌の周辺」の中で、「設立以来、六度校名を変更している。校歌も四通り作られた。」と書かれています。(昭和60年9月)

校歌が完成した時の大津東高新聞には「本校校歌としていつまでも生徒諸君に親しまれていく事を希望する。」と書かれています。(30年10月)

また、80年記念誌に、現在の校歌は「30年度になってから校内に校歌作成委員会が誕生して、度重なる審議、検討の結果、校歌が完成し披露された。これこそ湖国に育つ若人達が、由緒ある学園で身心を練り、理想の未来に進むべき方向を示したものと云えよう。」とあります。

当時の「校歌選定委員会」の先生方がご尽力いただいた校歌を卒業生、在校生に親しまれ、「永久」に歌い継がれることを、一同窓生として希望しています。

膳中入学のころ

膳中39回昭和16年卒 谷直光

玉津小学校6年生の担任、木戸脇義夫先生のご指示で、昭和11年4月、膳中へ入学。時の校長先生は、杉本一郎先生(ニッケネーム、ナフタリン)、教頭先生は「漢文の大家」山田有功先生(新しい校歌の作詞者、沖繩のご出身、ハブさん)。

校長の杉本先生は、地元の大先輩・杉浦重剛先生の崇拜者で、日常のご訓話の中でも重剛師のお名前が何度も挙がった。その伝統は今も脈々と受け継がれているものと思われる。

在学中、どの運動部にも属さない者は放課後週2回、茶臼山の重剛碑に敬意を表して駆けめぐって行くことに決まっていた(もちろん小学生はその常連)。

(矢島の先輩、山本由太郎さんは、膳所駅は「馬場駅」の名で、貨物専用で、石山駅から徒歩で通学された由)音楽の先生は、寺村周太郎先生、各種の集会にはいつも専門でグラランドピアノを弾いておられた方が、数学の先生であり、後日お聞きした事は「魔法陣」の、国内外著名人と聞き、更に驚いた。(分厚いガラスの眼鏡を愛用されていた。)

その他の名物先生(思い出すままに)
 ・理科、植物の先生、阿佐常右衛門(ヤギ)
 ・英語の清水先生(マメちゃん)

・地理の寺田先生(マンザイ・列車事故で亡)
 ・アメリカ帰りの喜多村先生(カイタミウラ、米国でこのように呼ばれていたと自称)

校歌のこと

入学時の校歌は「春鶯蕩の琵琶の湖」であったと思うが、すぐ今の「草生す城は」に変わっていたようだ。その後、何年かして膳所高が夏の甲子園大会に出場(ずっと長い間、京滋代表は京都の平安が定番になっていた)と決まった時のこと、大津の甥っ子を連れて喜々として甲子園へ、何万人という応援席ではなく、閑散としたネット裏の中央の最もグーの席に二人で陣取ったまでは良かったが、対戦相手の桐生高に18対0の惨敗、すっかり気落ちして、校歌の斉唱も無言、そのまま甥っ子と大津まで帰った苦い思い出。

2年生になった昭和12年は日中戦争の勃発で(昭和12年7月7日)従来の世相はすっかり戦時色が様変わりした。



同窓会事業のご案内

◆第9回(平成25年度)クッキングセミナー

- ・とき 平成25年6月13日(木)
- ・ところ 大津プリンスホテル 2階「比較の間」
- ・参加費 四、〇〇〇円(当日徴収いたします)
- ・内容 中華料理
 ・地元の食材を使った料理
- ・定員 申込み順(先着20名様)
- ・お申し込みは、同窓会事務局まで
 TEL077-5224-4295又は
 FAX077-5224-1732
- ・参加申し込みいただいた方には追って詳細を連絡いたします。

◆第18回(平成25年度)ゴルフコンペ

- ・とき 平成25年9月16日(月・祝)
- ・ところ メイプルヒルズゴルフクラブ
- ・スタート時間 甲賀市信楽町田代6-5
 TEL0748-821-3800
- ・競技方法 8時00分アウト・イン同時スタート
 申込後各自あて集合時間及び組み合わせ表を追って通知します。
- ・当日会費 ダブルベリア方式による18ホールストロークプレー
 一八、〇〇〇円(予定)
- ・募集人数 但しメンバー・シニアは別料金
 30組 120名
- ・定員に達し次第第X切とします。

膳所高卒業寄贈図書「石鹿文庫」

著者・名	書名・巻次(版次)
細川 八幡	●LUV KITCHEN The Rec
高橋 勉	●47都道府県の名門高校
高橋 勉	●報復の宴 匿された厲札事件
愛宕 元	●甦える羅漢たち 東京の五百羅漢
三宅 正信	●近江のかくれ里 白洲正子の世界を旅する
三宅 正信	●中国の歴史 上 古代~中世
三宅 正信	●郷の四季 三宅正信遺作写真集

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。
 「石鹿文庫」は同窓生の著書を集めた文庫です。

会費納入ありがとうございました

同窓会会費納入状況

会員の皆様から納入していただきました平成24年度の同窓会会費は、平成25年3月20日現在、

総額 7,900,000円

です。

前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきました。会員の皆様のご理解に感謝しますと共にますますのご協力をお願いいたします。

今回 平成25年度会費納入の振替用紙を同封いたしておりますのでご入金の日ほど、よろしくお願ひ申し上げます。(財務部)

会員名簿購入のお願い

平成25年版の会員名簿を購入してください。この名簿は会員のみ限定販売です。

価格 4,000円(送料税込)

膳所高同窓会で承ります。
 受付時間(月~金) 13時~17時
TEL 077-524-4295

滋賀県立膳所高等学校同窓会

年会費納入のお願い

平成25年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)、まとめてご納入いただければ幸いです。

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378
 (振替用紙は共通です。) 銀行 滋賀銀行 本店 普 913381
 関西アーバン銀行 びわこ営業部 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会 会長 浅田 幸作です。

※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いしています。
 ※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入下さい。(財務部)

膳所高校卓球同友会 25周年記念事業を実施して

昨年8月12日（日）、里湯普話雄山荘におきまして、膳所高校卓球同友会25周年記念事業を実施しました。この日は、46人の会員が集い、昔話に花を咲かせ、世代間を越えて親睦を深めました。また、住友生命の藤井寛子選手をゲストに迎え、エキシビジョンとして、同友会会員と卓球の試合をさせていただきました。日本を代表する選手のプレーを間近に見て、感激することにも楽しい時間があったという間に過ぎました。また、後輩の試合のビデオ鑑賞をしながら、日々がんばって練習に励んでいる後輩の様子を、顧問の先生方からお伺いしました。

同友会は膳所高校卓球部のOBおよび関係者で構成されています。年一回、膳所高校卓球部の現役生との親睦試合を実施し、現役生のため、心遣いを注ぎ、心地よい汗を流しています。今後も、できるだけの多くの会員の皆様に参加していただけるよう、楽しい事業を企画していきたいと考えていますので、ぜひ参加ください。（幹事 結城和子）



ヨット班OB・OG総会報告

平成24年8月12日、浜大津の琵琶湖ホテルにてOB・OG総会を開催しました。当日は永く顧問を務めていただいた布留川先生、ヨット班創立メンバーの高橋前会長以下50名のOB・OGが参加しました。あいにく顧問の山下先生、元世界チャンピオンの堤智章氏、元

オリンピック代表の兵藤和行氏等はレース日程等と重なり欠席されました。

当日は盆休みの初日ということもあって遠方からの参加者が多く、久しぶりの再会に話がはずみ、大半のメンバーがそのまま二次会に移行、大いに盛り上がりました。

山下先生から現在の膳所高校ヨット部の現状報告をいただき、後継指導者の問題、財政問題等の厳しい状況を当会としてどう支援していくか検討することとなりました。

OB・OGの総数は319名となりましたが働き世代を中心に移動される会員が多く、全ての会員に連絡が行き渡りません。移動の際に事務局まで連絡をいただければ幸いです。（幹事 昭和41年卒 深田敏雄）



膳所高校陸友会の活動について

膳所高校陸友会再建から早や3年目となりました。会員名簿（約700名）も概ね整備され、会費の納入状況も160名程度で当面の目標は達成できたのではないかと考えています。

また、陸友会の活動は課題があるものの皆様方のご理解により当初の目標を何とか達成することができました。

さて、2012年5月20日に開催されました総会では、役員改選があり、新会長に中村



莊治氏（S41年卒）、新副会長に武上淑子氏（S41年卒）が就任され、佐藤前会長 吉田前副会長は今後顧問の立場で貢献していただくことになりました。総会后、当日開催されました膳所高校同窓会の懇親会に「陸友会の幟」を立て、同窓会全体の参加者のうち約2割を占める35名が参加いたしました。

懇親会出席者の紹介時に、陸友会出席者全員が壇上にあがり、校歌を高らかに歌い、記念写真を撮り、笑いと感動が会場を埋め尽くしました（写真参照）。さらに、陸友会のメンバーで卒業後2年目の若手女性2名（北脇里帆さん、上田美月さん）が急遽スピーチをすることに、会場に強力な印象を与え、陸友会の存在を示すことができ誠に痛快な思いをいたしました。陸友会の顧問でもある阪田膳所高校同窓会副会長もたいへんご満悦でありました。

膳所高校陸友会への主な活動は、役員会を2回、幹事会を2回開催し、会員住所の整備や会報発行など、さらに現役陸上班員への支援を行って参りました。また、会員の交流会もシニア層（60歳以上）は懇親会を通じ活発に活動し、ミドル層（40歳以上）はゴルフコンペを開催するなど、徐々にではありますが輪を広げていきます。

最後に、膳所高校陸友会の発展は会員の皆様方のお力が不可欠であります。是非とも会の活動に積極的にご参加いただくことを願っております。（幹事 昭和45年卒 荒川昭治）

膳所高校吹奏楽班 OB合同演奏会

2013年2月17日（日）に開催した吹奏楽班OB会主催の「第5回OB合同演奏会」について報告します。2002年に再興を果たした吹奏楽班OB会は、「OB相互の親睦と現役への援助」を旗印に活動を重ね、2005年10月の第1回演奏会開催以降、回を重ねて第5回まで継続する事が出来ました。指揮者、出演者、運営スタッフ全てを吹奏楽班OBだけで構成することに拘りながらも、今回は総勢70名という今までで最も多くのOB出演を得ました。この70名のOB達の卒業年代を見てみますと、平成20年代が23名、平成10年代が9名、平成一桁代が13名、昭和60年代が7名、昭和50年代が14名、昭和30、40年代4名となっております。昭和39年から新卒生の平成24年まで膳所高校OBならではの幅広い出演者となっております。

今回の演奏会では、1部「吹奏楽オリジナル」、2部「ポップス」、3部「クラシック編曲」の3部で構成し大変盛りだくさんの選曲となりましたが、2012年8月から10回ほどの合奏練習を重ね恥ずかしい演奏が出来たのではないかと自負しております。主な曲目をご紹介します。「吹奏楽のための交響詩 ぐるりよさ」、「ウイズ・

ハート・アンド・ヴォイス」、「ディスコキッド」、「ベニー・グッドマン・メドレー」、「イタリア奇想曲」、「スラブ行進曲」となります。もちろん、校歌と道遙歌もアンコールで演奏しております。

このOB演奏会では、膳所高校同窓会を始め、膳所高校関係の皆様にご協力頂きました。この紙面をお借りして感謝の意をお伝えします。さらに、第6回以降もOB演奏会を継続したいと考えておりますので、今後とも膳所高校OB皆様のご支援、ご協力を賜りたいと存じます。よろしくご協力申し上げます。（文責：吹奏楽班OB会事務局、昭和51年卒 横田稔）



道遙歌 元々、高校生が気軽に口ずさめる曲を作ろうということで道遙歌作成委員会によって作成されたものですが、我々の年代（昭和30年代）では、この曲を野球の応援で使用していました。応援団が試合終了後にエール交換をするのですが、そのとき、試合に勝った相手の健闘を折り、「頑張ってくれ」という気持ちを伝えるために応援団の「道遙歌イッツパート」の言葉に続いて吹奏楽部が道遙歌を演奏しました。その後、勝った相手の校歌演奏の返歌を受けると言うロマンあふれる礼儀作法がありました。このように試合に負けた時に使用されたのが「膳所高校道遙歌」でした。他的高校にはなかったと思います。（昭和39年卒 河原林 晋）



周年同窓会



ふなの会60周年記念同窓会

(大津高3回 昭和27年卒業)

私たちが昭和27年3月に大津高校を卒業してから60年の歳月が流れました。半世紀を超える遠い昔のことになってしまった中学高校当時を振り返ってみると、敗戦後の混乱期で学制改革とやらに翻弄され、毎年のように学校が変わり、目まぐるしく校舎を転々とさせられた、落ち着かない6年間だったような気がします。

因みに私の場合を例に挙げますと、終戦の翌年に膳所中学に入学し、1年間は堅田分校、2年は膳所本町の本校、3年の1学期は大津高校併設中学に編入されて膳所駅前前の旧尾花川の旧大商の校舎へ、そして昭和24年、統合された大津高校に入学し、1、2年は膳所駅前前の西校舎、3年は膳所本町の東校舎と頻りに移動させられました。これほど転々としますと、どの校舎にも愛着が薄く、自分の母校は一体どこなのか、分からなくなってしまうそうです。

このような状況の中で過ごした6年間でしたが、それなりに懐かしい思い出も多く、これまで数年ごとに同窓会を開催して来ました。2012年は卒業後60年という節目の年に当たり、60周年記念同窓会を5月17日、151名が参加して琵琶湖ホテルで開催しました。60周年とはいつても特に何か趣向を凝らした目新しい企画などは取り入れずに、懐かしい旧友と語り合う場を提供するという同窓会本来の目的に沿って、よりシンプルな内容としました。

最初に物故者へ黙祷を捧げた後、初めて大津校の校歌「比良の嶺に雲はいゆきて 鳩の湖たゆたふ畔…」を全員で歌って幕を開けました。会は終始和やかなうちに進



行し、十分旧交を温めることができました。最後に「浜辺の歌」「琵琶湖周航の歌」を歌い、これからも元気で頑張ろうと励まし合い、次回の2014年奉寿記念同窓会での再会を誓い合って散会となりました。

なお、後日開催されました次期幹事会(神崎康一会長)で、2年後の平成26年5月14日(木) 傘寿達成を記念した「長寿記念同窓会」を琵琶湖ホテルで開催することが決定されました。

55周年記念同窓会

(膳所高5回 昭和32年卒業)

私たち膳五会は、平成24年6月10日(日)に大津プリンスホテル淡海で同期生88名が集まり開催しました。50周年は125名が集まりましたが、今回は多くの方が不参加でした。恩師の先生もご出席が少なく少し残念でした。欠席の理由は、親の介護があるから、孫が来るから、先約があるから、旅行があるから、法事があるから、等でありました。



世話役の方は電話やメールで一人でも多くの方に、来てもらいたい一心で呼び掛けをしましたが、100名を目標にしていたが残念でした。5年前にお目にかかった中にもお亡くなりになった方が数人おられ、ひとしお淋しく思いました。

受け付け後、全員で記念撮影し、当日のスナップ写真は高野隆男氏にCDの編集をお願いして後日全員に送付しました。

中村幸弘氏の司会進行で「校歌斉唱」に始まり、帰らぬ人となられた恩師、同期生諸氏のご冥福を祈って黙祷を捧げました。実行委員長殿喜勝氏の開会あいさつ、東京から来られた岡部邦男氏の乾杯の発声で食事、歓談になりました。

食事がすすむなか、テーブル毎にスピーチが始まり、久しぶりの方々を中心に和気あいあいの和やかな雰囲気になり、包まれ時間の経つのも忘れ、3年後の再会を約束して「琵琶湖周航の歌」の大合唱で一次会は、お開きになりました。

引き続きホテル本館38階の「トップオブオオツ」で有志25名が語り、気が付けばすでに開会から5時間以上が経過しており、名残惜しいが再会を約束して散会しました。お疲れ様でした。

(小西英太郎)

50周年記念同窓会

(膳所高10回 昭和37年卒業)

大変大きな節目である50周年の記念同窓会を、平成24年10月28日(日)に琵琶湖ホテル瑠璃の間において開催いたしました。残念ながら恩師のご出席は久保先生おひとりとなりましたが、同窓生125名の出席のもと、木村君と高嶋さんコンビによる司会に始まり、小林君率いるよし笛の演奏のあと、曾根君の指揮のもと校歌斉唱、恩師5名と同窓生46名の物故者に対し黙とうを捧げ、久保先生のごあいさつと花束贈呈の一連のセレモニーを終え、和やかに、賑やかに祝宴が始まりました。

当初クラス別に分けていたテーブル席も、またたく間に区別もなく、あちこちで50年前にタイムスリップした会話が弾んでいました。時間は充分に取ったつもりでしたが、3時間という一次会もまたたく間に終了し、二次会への席へと移動、一次会以上に盛り上がった雰囲気です。50周年という事で、長崎君の提案による文集を募集した結果、21名からの素晴らしい作品が集まり、毎回の記念同窓会につくっている名簿に合本され、立派な記念誌が出来ました。今回の同窓会開催に際してお世話下さった幹事の皆さん大変お疲れさまでした。特に毎回の記念同窓会に対する名簿の管理から発送、名簿の作成等すべてお世話になっておられる小林辰也君には、感謝の表し方がないくらいです。出席下さった同窓生の皆さんありがとうございます！



(白井 勝好)

45周年記念同窓会

(膳所高15回 昭和42年卒業)

膳所高校卒業45周年記念同窓会が、2012年9月29日(土)大津プリンスホテルにおいて開催された。第1回は卒業20周年を記念して開催以来、5年ごとに実施、3年前の還暦同窓会を含め、今回は7回目の開催である。

今回は、「時間に余裕がある方も、もう少し頑張る方も共に次の楽しみを探しにせひ」と呼びかけ、160名を超える参加者が集合。一次会は、「プリンスホール」で14時から、二次会は、16時30分から、38階の「トップオブオオツ」で開催した。

12時に幹事が集合し、名札、名簿、参加者リストの準備。当日イベントのジャズ演奏の打ち合わせを実施。13時から受け付けを始めたが、ホールに参加者があふ

れ、あちこちで話の輪が広がっていった。待ちかねたように、13時45分頃、参加者が入場し、まず、記念撮影を実施。

久保正一さんの進行で開会宣言を行い、その後、全員で黙とうをし、31名の故人の冥福を祈った。

乾杯は、東京から参加してくれた関東膳所高会から細江卓郎君が音頭を取って同窓会が始まった。今回の同窓会は、参加者が好きな仲間とゆっくり話をしてもらおうと企画し、席を決めずに開催した。同窓会の中でも、江若会、湖南会、関東膳所高会、Z42年グループ会等など以前から様々なグループがあり、近況を報告。また、反日デモで大変な藩陽から急遽駆けつけてくれた隈井君から現地の報告などなどなごやかな一次会であった。

宴中頃に、ジャズシンガーの若手売出し中の歌手森川七月さんとピアノリストの浜崎裕史さんの軽快なジャズをひととき楽しんだ。森川さんは、10月の大津のジャズフェスティバルにも、参加された。

最後に、岩崎正康幹事長から役員紹介があり、沢井進一幹事の中締めで、次回50周年はお互い元気で会いましょうと確認し一次会は終了した。

引き続き全員参加で「トップオブオオツ」を借り切り、2次会を開催し、狭い席をゆずりあいながら、120人の席に160人ほどが、友との再会に時間を立つのも忘れて話の花が咲いていた。

実際に、13時頃から集まってから、19時ごろまで尽きることなく同窓会は終了し、その後は、3年クラス会、クラブや好き寄りで、3次会、4次会と多くの仲間が、夜を徹して杯を酌み交わしたとメールで報告が来た。

今回の同窓会は、5年後、この年になると健康を維持するのが大変で、待つのが長すぎるという方もいた。あれやこれやで、ながい、長い1日でした。

(沢井進一)

40周年(還暦イヴ)記念同窓会

(膳所高20回 昭和47年卒業)

ロンドンオリンピックの興奮まだ覚めやらぬ2012年8月19日(日)、琵琶湖ホテル・瑠璃の間で卒業40周年の記念同窓会が開催され、恩師の布留川祐作、山口茂、八木敏雄、各先生をお迎えして、97名の懐かしい仲間が10年ぶりに集まりました。卒業以来、2回目です。在学中から「のんびりしている」と言われた私達が初めて同窓会を開いたのは「30周年記念同窓会」でした。今回は59才での同窓会ですが、これを「還暦イヴ」と



呼ぶのだそうで、人生の大きな節目を間近に控えて、10年前とはまた趣を異にする雰囲気でした。前回は、脂の乗り切った40代最後の年、職場を背負って立つ気負いが熱気となり、懐かしさ以上に名刺交換が目立つ会場に圧迫されましたが、さすがに今回はそういった風景もなく、ひたすら「青春のとき」を懐かしむ雰囲気であったように感じられました。



記念撮影の後、代表世話人・西出喜代治さんの細やかに行き届いた挨拶に始まり、司会の大槻徹さんのユーモアあふれる紹介で三人の先生のお話を伺い、その懐かしい口調に40年を飛び越えて感激しました。学年途中で転校された深井綾子さんの「その後」のお話を聴くにつけ、膳所高の素晴らしさを改めて実感。その後は由紀さおりの「1969」をBGMとして、昔話に花を咲かせました。思いがけなかったのは、小林明子さんと上田晶子さんによるダンスパフォーマンス。日頃鍛えたダンスやバレーの特技を活かし、コスチュームも鮮やかにビジュアルをカッコよく踊って、やんやの喝采を浴びました。最後に、膳所高今昔をスライドで紹介し、心の故郷である母校を再度心に刻み、3年後の再会を約して散会しました（10年後の開催は不安とのこと）で一気に3年後となりました。

(三十木和子)

40周年記念同窓会

(膳所高21回 昭和48年卒業)

まだまだ新春の寿言を交わす、1月3日、木曜日、琵琶湖ホテルにて、145名の同窓の集う中、40周年記念同窓会が盛大に開催されました。

恩師の先生のご臨席は、残念ながら、おひとりだけでしたが、羽野正孝先生が、お元氣な姿でご出席頂き、心にしみるご挨拶を賜り、開会となりました。

各クラスの世話人の皆様には、約8ヶ月前から、お集りを頂き、クラスの名簿の整理や、会場の打合せなどにご苦勞頂き、そのおかげで、早い時期に開催案内を出させて頂いた事が、幸となり、新春、お正月の3日目にもかかわらず、また、



遠方からも多数ご参加頂き、楽しい会となりました。アトラクションでは、中谷仁彦君が、日ごろきたえた喉とギター演奏で、「ワンマンショー」を繰り広げ、楽しませてくれました。

また、会場には、BGMに懐かしい昭和40年代のメロディーが流れお酒もあいまって時間と共に、40年の時空を感じさせない盛り上がりとなりました。

還暦を前にして、健康に、健やかな人生を過ごさせてもらい、この様に、同窓会にも出席できる幸せを、皆が感じ、自分の人生に誇りと、さらなる活力をもらえる同窓会となった様であります。最後に、全員で校歌を斉唱して、開会となりました。

次回は、5年後、「いや還暦の年に……」と終りが近づくとつれて、先々の心配を口々にしていることが少し老い先を心配する年になったのかなと感じておりました。そして、二次会はホテルの中で、まだまだ元氣な人は、三次会へと三々五々夜の街へ繰り出し、解散となりました。次回、また元氣に笑顔で再会できることを心より祈念致しております。

(山本勝義)

25周年記念同窓会

(膳所高35回 昭和62年卒業)

とき 2013年1月2日(水)
場所 ホテル ポストンプラザ草津 びわ湖
参加者総数 80名(恩師6名、同窓生74名)

比叡嵐が吹く新春のよき日、74名の同窓生が5年ぶりに草津に会しました。年始のお忙しい中にもかかわらず恩師の先生方にもご列席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。同窓会の案内はハガキよりTwitterやFacebookが主役を演じるようになり、時代の変化を感じる企画となりました。司会をお願いした青木直志君の開会宣言で開宴となり、続いて応援団の葎本勝利君のリードで校歌斉唱を行いました。恩師の先生方のご紹介と羽野正孝先生からご挨拶を頂戴し、その後伊藤克己先生の音頭で乾杯と相成りました。宴会中は昔のよき時代の回想をする人、名刺交換をしてビジネス談をする人など様々なシーンが繰り広げられていました。中でも恩師の先生によるマイクリレーでは、古きよき時代の懐かしいお話から現況の生活ぶりなども披露を頂き、参加者一同たいへん興味深く聞かせて頂きました。25年経てば容姿や体型も変化するので、笑顔



と言葉ひとつで簡単に打ち解けられる関係は同じ学び舎で3年間過ごした間に培われた膳所高魂の真髄だと感じました。級友に囲まれ華やかにひと時を共に過ごし、一本締めで中締めとなり楽しいひと時も幕を閉じました。次回も今回より多くの同窓生と恩師の先生をお招きし開催出来ればと考えております。最後になりましたが、当日有志としてお手伝いを頂きました各位と残念ながら欠席された同窓生の皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございます。

追伸 Facebook上では「zevel1987」というグループも設置しています。お気軽にご活用下さい。ここでの情報交流を通じ、関東地区の同窓会も開催されたようです。

(世古 誠)

25周年記念同窓会

(膳所高37回 平成元年卒業)

2013年1月5日に琵琶湖ホテル瑠璃の間に膳所高校平成元年卒同窓会が開かれました。

卒業以来、初となる学年の同窓会で先生方9名、同窓生90名が出席しました。お子さんと連れの参加もありました。吉永彰三先生からお祝いの言葉をいただき、北中敦さんの乾杯で開会し、片岡純治さんと関西テレビ元アナウンサー吉岡美賀子さんの楽しい司会で会は進行しました。

出席者は、先生と同級生との歓談を楽しみ、同窓生のリレートークや先生方からのメッセージで高校時代を思い出しました。プログラムとして東日本大震災支援の報告、卒業後に建て替えられた新校舎の紹介がありました。薬剤師の資格とヨガの特技を生かして東日本大震災の被災者支援を続けてきた西垣有輝子さんによる支援と現地のお話を興味深く聞き、膳所高校で教壇に立つている東谷正宏さんによる新校舎紹介では充実した設備に感心しました。



先生方への花束にはモールドアートを普及している北中敦さんのレクチャーで同窓生が作った針金細工を記念に添えました。当時を懐かしみながら、各方面で活躍している友人と新しいつながりを広げるあつとあつと2時間でした。同窓会理事の選出を行い、今後の同窓会開催の体制も確認されました。出席者からは「楽しい会だった」「原点を確認できた」「何年も会っていないが、思い切ってきてよかった」「膳所高の凄さがわかった」

などの声がありました。大島直彰さんの呼び掛けから二ヶ月ほどの開催でしたが、ネットを活用して開催の連絡や企画の相談を行い、充実した同窓会になりました。終了後もZevelのグループ「膳所高校平成元年卒同窓生」で撮った写真を見せあつたり感想を出し合ったりして、出席できなかった同窓生を含めてつながりを広げています。

(林 潤)

20周年記念同窓会

(膳所高40回 平成4年卒業)

平成25年1月2日、ブライトンシティ京都山科ホテルにて於いて平成4年卒20周年同窓会が開催されました。「さて、世の中の人はいったい生涯で何回くらい同窓会にでるのでしょうか?」そんな呼びかけで始まった今回の同窓会ですが、実は当学年においては今回で第4回となり、27歳時を皮切りにその後はオリンピックキヤーが来る度に幹事としての準備を開始し、31歳時、35歳時と開催して参りました。過去における同窓会は各回盛況でその齡ごとの楽しさがありましたが、周期4年では少し変化が乏しく感じられるのか今回はこれまでと比較すると若干少なく約80名の参加となりました。しかしながら、参加者同士の絆は回を追うごとに益々強くなり、初回と比べて再会時の硬さも取れて序盤から盛り上がるのができました。当日は受付にて小倉(原田)直美さん、随念英生君、そして卒業後に結婚した前川敦君と(栗本)法子さん夫妻が迎えてくれ、司会は少々窮屈になった当時の学生服に身を包んだ早川明伸君と私によるハイテンションな年始挨拶と、音楽担当の川嶋進君選曲による懐かしい80年代MUSICで始まりました。そして、年始の忙しい中来てくださった恩師の今宿先生、藤本先生、山崎先生(通称ベク)、嬉野先生から当時の思い出話や今後の人生におけるご指南など、ありがたいお話を伺いました。また、昨年準備に奔走してくれた松山善彦君や満島(那須)準子さん作りの完成度の高い素晴らしいスライドショーを放映することができました。そこには今回残念ながらご出席いただけなかった恩師の奥村先生、玉木先生、加藤先生からのビデオメッセージをはじめ、今ではSSHとなつてすっかり様変わりした新校舎や当時の様子など面白い映像が盛り沢山でした。会場の進行においては、稲葉陸太君や古田久明君のお手製による都道府県別のフリップが用意され、参加者は現在の居住地やこれまで



に住んだ土地での繋がりで集まることができ、話題に困ることもなくあつという間の3時間が過ぎました。閉会后に2次会を望まれる声も多かったことから、今回は上田大君が会場を手配してくれており、そのまま大勢で蹴上のウエスティン都ホテルのバーラウンジへなだれ込みました。その後はいつものように3次会、4次会と話は尽きず。卒業生は1学年500名以上ですから、同じ学び舎にいながらも在学中には話をする機会に恵まれなかった同士が数多く存在すると思います。しかしこの同窓会という場ではその機会をもう一度取り戻すことができ、新たな出会いや友情が芽生えることがあることを改めて感じました。実は過去4回の幹事を務めたのですが、自身としては今回の幹事を最後にしばらく期間を置くこと決めておりました。ただ、今回の雰囲気や「また4年後にやろうよ」なんて声をいただくと、次のオリンピックを観戦しながらまたみんなに再会したい気持ちになりそうな気がします。準備段階から案内などで活用したSNS (Facebook) ですが、すでに85名もの同級生が登録されており、更に広がっています。今後はこういった情報技術も活用してプチ同窓会が全国、いや世界のあちこちで開催され、またその様子を遠い場所からでも見る事ができたら「イイネ」、なんて考えておられます。最後になりましたが、今回参加していただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

(村上元三)

5周年記念同窓会

(膳所高56回 平成20年卒業)

2013年1月2日、ホテルグランヴィア京都において卒業5周年記念同窓会を開催しました。恩師の先生方からは大崎先生・河原先生・芳賀先生・辻京子先生・川上先生の5氏にご参加いただき、同窓生も総勢242名を数えるたいへん賑やかな会となりました。

ちゃんと盛り上げられるのかどうか企画段階では心配もしていましたが、それは杞憂であったようです。最初こそクラス毎に集まって会食していましたが、あとは成り行き次第、皆活発に動いて回り、あの頃に見慣れた「グループ」があちこちに出現し懐かしい光景が見られました。また、既に社会人となった者と、この春から働く者さらには就活中の者と(あと、まだまだ学生の者)と色々な立場の人間が居る時期です。そこかしこで盛んに情報交換が行われており、これも印象深いものでした。

交流といえば、一学年440人もいる内で高校時代に親しく関わる相手はどうしても限られます。しかし、同窓会では不思議とたくさんの人と話せるもので、この日を機会にさらに同窓生の輪が広がったのではないのでしょうか。

会の時間は2時間に設定しましたが、まさにあつという間でした。「もつと時間長くして!」という文句(?)が聞かれたのも嬉しい誤算でした。最後は大崎先生から「ピンチをチャンスに」の言葉を頂き、皆で校歌斉唱。そして記念品は懐かしい購買のクッキー。(あのクッキー、いま食べても中々に美味しい一品です。母校訪問の折はぜひ)。解散した後、一人また一人とFacebookに写真を投稿して

いられるものを見て、まだ会が続いているような余韻にひたたり、残念ながら参加出来なかった人にも雰囲気だけでも伝わっていました。

私、閉会挨拶で次は5年後!と宣言しましたから、もちろんやります。次は10周年同窓会。ここからの5年間は、私たちにとって大きな5年間になるのでしょうか。そしてまた、過ぎ去ってみれば一瞬の出来事なのかもしれない。5年後また皆で集まり、お互いの今を報告しあい、また次の5年への糧と出来ればと思います。

(福井恒誠)



記念同窓会

膳中三九会

(昭和16年卒業)

平成24年11月27日、秋も酣なる頃、膳中39回の同窓会を開催しました。これは亡き友山根晋君が、寸暇を惜しんで同窓生の足あとを辿りつくしてやっていた仕事です。山根君の心づくしがなければ、今の39会はありません。昭和16年卒業の生徒数は160名余りあつたが、今は生存者は2割程度28名のうち半数は病床におり、会合する者は12名であつた。

今年には東京から中村純二君(第一次南極越冬隊の観測隊長)、島根県出雲市から下村孝一君が参加してくれた。小沢七兵衛君は大病後の人工透析中にも拘わらず元気に姿を見せて呉れた。

山科の毘沙門堂で紅葉見物をして山科駅前のレストラン・ホテル(これも亡き武村銀一君が社長をやっていたので縁ができた)で会食した。

標準年齢89才、来年は卒業を迎える者元気で、山田有功先生(作詞・寺村周太郎先生作曲の校歌「草生す城は墟古れど」を歌い来年期して散会しました。)

(大坪武輝)



膳所中四三回(四卒)同級会

(昭和20年卒業)

平成24年10月23日午後、日本列島に低気圧が通過して朝方からの秋雨が残り、JRも延着するなか同級生34名は会場の琵琶湖ホテルへ続々と集まった。

我われ膳中43回4卒生は、太平洋戦争勃発の昭和16年に入学し、20年の終戦の年3月、ほとんどが安土干拓に動員されたまま卒業した。卒業後も入学した上級学校が戦災などを蒙り、受け入れ態勢が整うまではそのまま干拓に従事した。まさに戦争にどっぷり漬かった軍国少年だったことは創立115年の伝統を誇る校史のなかでも稀有の存在だろう。それだけに結末は固く、平成9年からは毎年同級会を開催し、今年で27回を数える。

同級会世話人は当時の通学区をもとに5つに区分して持ち回り、今年は大津中央在住者9名がお世話することになった。上田和夫君が中心となって5月から準備を始めたが、何度も経験しているベテラン揃いでスムーズに進められた。卒業時は214名だったが今は約半数の111名が黄泉の国へ旅立った。生存者の中にも連絡不能とか病気などの理由で案内不要者があつて、結局健在者は77名だった。

出席者の中には杖を引く者、体調の万全でない者もいたが、老骨に鞭打ち県外からも多数駆けつけ、受付時間開始時には全員が顔を揃えた。

時間がきて、白髪やすっかり禿げ上がった頭を往時を重ね合わせながら、3階のフォトスタジオで記念写真に収まる。16時より老人向きの和風椅子席「琵琶湖の間」にて懇親会を開く。司会は三輪滋夫君の物慣れた口調で始まり、最初にこの一年間で故人となつた7名を含めた物語者の冥福を祈つて黙祷を行う。

続いて世話人代表の挨拶を前日も務めた泉馨君がソフトな語り口で話しかけた。乾杯の音頭は座席番号1を引いた奥田宏君が落ち着いた物腰で発声し、会場の雰囲気は一気に盛り上がり祝宴に入る。

程なく孫よりも若い年頃のコンパニオンが現れ酌をする。大方の諸君は座を立つことなく自席でコンパニオンを相手に静かに杯を傾けながら歓談する。その姿はまことに微笑ましく、80余年を生きた人生の重みを感じさせる風格さえ具えていた。

宴酬となりアトラクシオンとして垣見昇君のハーマニカ演奏と上田和夫君のカンツォーネ独唱をその豊饒たる風貌に感じ入りながら聴く。

あつという間に時間が経ち、次年度世話人の近江八幡、野洲、守山市在住者を代表して山本卓次君が猪野口重雄君の回顧談を交えつつ挨拶をする。

最後に恒例の「琵琶湖周航の歌」と校歌「草生す城」を澎湃と沸く60有



余年前に想いを蘇らせながら斉唱し、再会を約してお開きとなった。

(山下克巳)

傘寿記念同期会

(旧大津高1回・昭和25年卒業)

昭和19年に旧制の膳所中学・県立大津高女・大津市立高女に入学した私達は、戦後の学制改革によって、5年生になるときに新制高校の2年に編入されました。高校へは進まず、旧制の中学・女学校の5年で卒業した者もいますが、戦中・戦後の混乱期に培われた友情はかたく、集まれば昔話に花が咲きます。2年前には高校卒業60周年の同期会を開いたばかりだったのですが、すでに男性の2分の1、女性の3分の1が死亡、物故者が年々増える一方なので、全員が80歳になったのを機に、去る9月23日、琵琶湖ホテルで傘寿記念同期会を開催しました。

出席者は80数名。寄る年波のせいで、足腰が悪かったり、体調が思わしくなかったりして、来たくても来られない人が多かったです。は致し方ないことですが、出席者がいずれも元気旺盛で気力に溢れていたのは、何よりの救いでした。

私達の学年は、中学1年のときは軍事教練でしごかれ、2年の4月から軍需工場だった東に動員されて爆撃に遭い、敗戦後は初めて耳にする民主主義という言葉に戸惑いながら、試行錯誤をくり返して生徒自治会を立ち上げ、生徒だけで文化祭や体育祭をおこなつた学年です。六三三制になったら、中学高校時代は受験勉強に追われるから、真実とは何か、人生いかに生きるべきかといった大事なことを考えない日本人が増えるのではないかと、少年らしい懸念を懐きながら、新しく発足した高校に通つたのも私達でした。

そんな時代の記憶が失われていくことに一抹の淋しさを覚えますが、元気な者だけでも毎年集まって往時を語り、歴史を知らない若い世代の啓蒙に少しでも手を貸すことができればと思つている次第です。

(高橋 勉)

東二会喜寿同窓会

(大津東高2回・昭和29年卒業)

2012年11月16日(金) 12時より、秋空の晴天の日、びわ湖ホールに隣接し、南湖を一望できる「ホテルピアザびわ湖」6階にて、「東二会 58周年同窓会」と題して、



85名の参加者を得て行われました。

準備の幹事を膳所高校内の同窓会事務局にて会を重ね、昨年行った「祝喜寿」に次いで、連続した年に開催すべきかどうかについて、是非を討議した結果「今を生きる」の証として、兎に角今年も実施しようとの決意を得て、開催する運びとなりました。



蒲生容仁さんによる幹事代表の挨拶の後、遠くは東京から駆けつけてくださった近藤正臣さんの乾杯の後、宴は互いの今を生きる励ましを交わしながら、大いに盛り上がりました。今回も、参加不参加を問わず寄せられた近況報告集が配布されました。これは、親しい人への消息を知り得て、好評を博しています。

今少し詳しく当日のプログラムの内容をみますと、先ず、物故者の冥福を祈る黙祷、幹事代表の挨拶があり、大津東高の校歌を斉唱、その後、地域ボランティアの皆さん10名による大正琴の迫力ある演奏に耳を傾け、この大正琴の演奏をもとに道遙歌を合唱し、その後、上記のように乾杯を行って、宴に入りました。

宴の途中では、カラオケ(2番までの制限で)にて多くの方々の若き日を想わせる迫力ある熱唱を拝聴することが出来ました。最後に、「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、上野滋子さんの閉会の挨拶にて、互いに元気をもらいながら散会しました。(原田 潔)

昭和34年卒業生同窓会

(膳所高校7回・昭和34年卒業)

雲ひとつなく晴れ渡った空に湖岸の並木が映える平成24年11月25日(日)、琵琶湖ホテルにおいて、平成21年、卒業50周年記念会を機に、毎年開催(幹事はクラス持ち回り)今年も2組が当番 となった本同窓会を開催しました。

「同窓という名の良き絆」のサブタイトルののもとに、恩師の久保良彰先生をお迎えするなか、71名の参加を得て、懐かしく、楽しく、賑やかに秋のひと時を過ごしました。毎年開催ということで、「新味にかける、顔ぶれがあまり変わらない」との声もあり、準備の段階では参加者数を危惧していましたが、例年並みの参加があり、都合によりやむを得ず欠席の方も含めると、当面は毎年開催の方向でよいのではと思います。

当日は、受付開始前から続々と参加者が来場し、開会前から「やあ、元気か?」「ちっとも変わらんなあ!」「太ったか?」とか、たちまちにして若き日に振り返り再会を喜び

集いが始まりました。

記念写真撮影のあと、福島基之君の司会により開会し、まず「混濁の湖 日に映えて」と懐かしい校歌斉唱、この一瞬で昔に戻り、皆がひとつになった時点でした。やつぱり同窓会!ただ物故者が年々多くなり寂しい限りです。



恩師の久保先生の「あなたがたはまだ若い、今、できることは何でもやっておきなさい」とのお話と乾杯の後、いよいよ開宴。テーブルのご馳走もそこそこにあちらの席、こちらの席で昔話や近況報告などあつという間に盛り上がり、時間の経つのも忘れるほど話に花が咲きました。

会の途中では、NHKのアナウンサーである山田誠浩君による出席者の趣味や活動へのインタビューがあり、未だに、元気で活発に活動している仲間が多いことに戦前世代のラストバッターとしての力強さを改めて感じました。

一方で、終盤に北田慶治君設定の10問の〇×クイズでは知っているつもりだが、意外に間違っていることを知らされ、会場内は笑い声と驚きの声で大いに沸きました。ところが、幾つになっても勉強しないと駄目だなあと思つたところでした。

成人式同窓会

(膳所高校59回・平成23年卒業)

新年が明けて早々の1月12日、私ども平成22年度卒業生が成人の節目を迎えるに際し、大津プリンスホテル「プリンスホール」にて、同窓会を開催いたしました。当日は、飛び入りの参加もあつて、予想を上回る約370名の同窓が集いました。また、恩師の先生方も大変ご多忙の折、12名の方がご出席くださいました。冒頭では先生方にお言葉を賜り、私たちは懐かしさとともに、自らを鼓舞する思いを感じ得ました。また、当時の生徒会長丹保君の乾杯の音頭に始まった歓談の時間は、美味しい料理にも彩られ、大変な盛り上がりを見せる楽しいひと時となりました。

卒業からまだ2年しか経っていませんが、夢に向かつてそれぞれの道を全力で駆け抜ける同窓たちの姿は各々

にとつて大きな刺激となり、本

会は今後の人生の糧となる大変意義のある思い出となったように感じます。これほどまで大勢の同窓が、これほどまで大勢のおそらく今回が最後になるのではないかと思いますが、今後とも私ども同窓生は、生涯の仲間として互いに刺激し合い、支え合いながら交流を続けていくものと確信しております。



最後にになりましたが、このたび成人を迎えるにあたり、私たちが、我が国と国際社会の将来を担っていく者の一員としての責任を強く認識し、膳所高校卒業生として「遵義・力行」の精神を胸に、強く誠実に生きていくことを決意いたします。並びに、本会を開催するにあたって、お力添えをいただきました、同窓会事務局の皆様、恩師の先生方、そしてプリンスホテルの皆様から感謝申し上げて、同窓会の報告を終えさせていただきます。(植村和也)

関東膳所高校同窓会

世代を超えた同窓生の交流を目指す



楽天(株)の中島謙一郎さん
京・日比谷の日本プレスセンターにて関東膳所高校同窓会が開催され120名が集った。この会場は、ゴルフパチヨフ大統領やサッカー首相が記者会見した場所であり、東京都都心部なのに日比谷公園が一望できる最上階のレストランには誰でも入れる。

俳優の斎藤一平さんと吉田玲子さんの司会で始まり、長崎和夫会長、清水健至顧問、三日月大造議員のあいさつの後、楽天(株)常務執行役員の中島謙一郎さんが勤務先の全社英語化の取り組みやグローバル化についてスピーチした。英語が苦手だった中島さんが短期間に勉強強さを英語を身につけた経験談を聞いて、「やれば、できる」との勇気をいただくことができた。今回も12名の現役大学生から91歳の小笠原さんまで3世代に渡る年齢層の同窓生が世代を超えた交流ができるように、「世代間交流大作戦」と名づけられた交流イベントも行われ、校歌斉唱まで盛況であった。

次回の関東膳所高校同窓会は、平成26年春に行う予定。関東膳所高校同窓会のホームページも開設したので、「関東膳所高校同窓会」のキーワードで検索して是非ご覧ください。



司会者の吉田玲子さんと斎藤一平さん

周年記念同窓会 予告

60周年記念同窓会 (大津東高1回 昭和28年卒業)

日時 平成25年10月31日(木)
場所 琵琶湖ホテル
連絡先 幹事代表 高野 明
TEL 077-5255-2887
※詳細については別途ご案内いたします。

喜寿記念同窓会 (大津東高3回 昭和30年卒業)

日時 平成25年6月18日(火) 12時開宴
場所 ホテルグランヴィア京都
世話人代表 広田康雄
※詳細については別途ご案内いたします。

55周年記念同窓会 (膳所高校6回 昭和33年卒業)

日時 平成25年6月16日(日) 受付2時
場所 草津駅前ポストンプラザホテル
会費 1万円
連絡先 国松 昭(0748-77-2570)
※詳細案内は4月中旬にお送りします。

50周年記念同窓会 (膳所高校11回 昭和38年卒業)

日時 平成25年11月9日(土)
場所 大津市瀬田川畔 ロイヤルオークホテル
連絡先 北井征暁(077-5255-1248)
※詳細については別途案内いたします。

45周年記念同窓会 (膳所高校16回 昭和43年卒業)

日時 平成25年6月29日(土) 受付午後4時
場所 琵琶湖ホテル
世話人 岡本(内田)みどり
※詳細については別途案内いたします。

昭和46年卒・還暦同窓会

今年の同窓会総会後には、同期の小鏡幸雄君がゲストスピーカーとして、日本の宇宙開発の今を講演してくれそうです。多数の皆さんの出席をお願いします。

35周年記念同窓会 (膳所高校26回 昭和53年卒業)

日時 平成25年8月10日(土) 17時
場所 ロイヤルオークホテルスパ&ガーデンズ
連絡先 秋山(居嶋)洋子
TEL・FAX 077-5266-3648
※詳細については別途ご案内いたします。

25周年記念同窓会 (膳所高校36回 昭和63年卒業)

日時 平成26年1月4日(土)
場所 琵琶湖ホテル
(詳細は夏以降に案内致します。同窓会HPでもご確認ください。)
連絡先/世話人 村木康弘・望月泰男
(077-5311-0966)
E-mail:info@muraki-ac.jp

第61回卒業式



平成25年3月1日、厳しい冬の寒さが少し和らいだなか、本校体育館に於いて第61回卒業証書授与式が挙行された。将来への希望を胸に、普通科398名、理数科39名、計437名の生徒が、新たに膳所高等学校を巣立った。

保護者の出席のもと、おごそかに開催された。

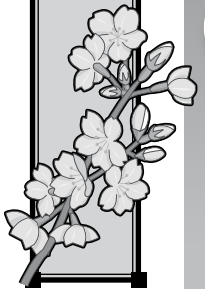
卒業証書は、各クラスごとに担任が卒業生を呼名した後、淵田豊朗校長からクラス代表に手渡された。淵田校長は、式辞の中で、卒業生に期待することとして、「未知のことに挑戦する心を持ち続けること。」「自分とは違う考えや意見を持つ人と積極的に対話すること。」「自らの言動に責任を持つ良き市民になること。」「の三つを挙げられた。

「卒業生の言葉」では、代表の米田香澄さん、久末航さん、森本ちえみさんが、三年間の高校生活の思い出や、支えてくれた家族への感謝、そして東日本大震災の被災者への思いを語った。

その後、卒業生は、久末航さんの伴奏のもと全員で「旅立ちの日」を合唱し、大きな拍手で包まれながら会場を後にした。

また、これに先立ち、2月28日には、同窓会入会式が行われた。同窓会入会式では上野滋子副会長が卒業生にお祝いとお祝いの言葉を贈られた。卒業生を代表して國松拓実さんが「同窓会入会の言葉」を述べ、小西英太郎総務部長から同窓会の活動等について説明がなされた。

卒業生がこれから力強く自らの人生を切り開いていくことを祈念しています。



班活動報告

2012年度 全国レベルの大会結果

- 報道部**
 - 放送班
 - 第59回NHK杯全国高校放送コンテスト 出場
- 体育部**
 - 空手道班
 - インターハイ
 - 女子個人形 2回戦進出 長谷川真央
 - 女子個人組手3回戦進出 長谷川真央
 - ポルト班
 - インターハイ
 - 女子シングルスカル 3位 北中玲加
 - 全国高等学校選抜ポルト大会
 - ヨット班
 - インターハイ
 - 男子ソロ出場
 - 男子デュエット出場18位
 - ソロ、デュエット出場者
 - 斉原和志 板鼻良太 高橋将至 高橋裕人
 - 国民体育大会
 - 少年セーリングの部出場 高橋裕人
 - 文化部**
 - 陸上競技班
 - インターハイ
 - 男子棒高跳出場 澤 薫
 - 女子400mH 準決勝4位 米田香澄
 - 日本ユース陸上競技選手権
 - 男子棒高跳8位 澤 薫
 - 化学班
 - 第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞
 - かるた班
 - 第34回全国高等学校小倉百人一首
 - かるた選手権大会 出場
 - 書道班
 - 団体戦2回戦進出
 - 個人戦C級の部 準優勝 宮本真由香
 - 第36回全国高等学校総合文化祭 団体戦 出場
 - 第36回全国高等学校総合文化祭 出場
 - 安芸全国書道展
 - 高校の部 準優勝 岸本くるみ
 - 美術班**
 - 物理地学班
 - 第36回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞
 - 日本学生科学賞全国出品
 - 第3回どくしょ甲子園
 - 最優秀賞受賞

サクサク! 主要大学合格者数

(国立大学)		(公立大学)		(私立大学)		(専修学校・各種学校)	
北海道大	8名	岡山大	4名	京都女子大	21名	防衛医科大学校	1名
東北大	3名	広島大	6名	京都薬科大	20名	防衛医科大学校	1名
筑波大	2名	九州大	4名	同志社大	181名	専修学校等	3名
お茶の水女子大	1名	その他の国立大学	13名	同志社女大	21名	防衛医科大学校	1名
東京大	6名	滋賀県立大	9名	立命館大	241名		
東京外大	1名	京都府立大	6名	龍谷大	31名		
横浜国立大	3名	大阪市立大	11名	大阪医大	6名		
富山大	1名	大阪府立大	13名	大阪工業大	8名		
金沢大	2名	和歌山県立医大	1名	関西大	52名		
静岡大	3名	その他の公立大学	13名	関西西大	3名		
名古屋大	6名			関西西大	2名		
名古屋工大	4名			近畿大	18名		
三重大	3名			摂南大	2名		
滋賀大	16名			関西学院大	18名		
滋賀医大	13名			兵庫医大	1名		
京都大	44名			その他の私立大学	73名		
京都教育大	8名						
京都工繊大	26名						
大阪大	45名						
大阪教育大	3名						
神戸大	28名						
奈良女子大	1名						

編集後記

校庭の満開の桜を見つめながら、同窓会報JUNGI DO30号の編集作業を終えました。

平成4年準備0号発行から18号までの編集長故谷口啓示さんのデザイン、発案で始まった同窓会報は現在年1回発行ですが皆様の御寄稿により内容も随分変わってきました。近年、周年同窓会、記念同窓会、各班のOBOG会など活発に開催されるようになりましたが、この広報誌もその一役を担ったのではないかと思います。振り返れば準備0号は6000部の発行で卒業生全員に配布できませんでした。

平成4年の1号創刊号からは、平成10年4月母校創立100周年を迎えるのを機に同窓生全員に配布することになり、現在26000部を発行しています。

今回も沢山の御寄稿、投稿を戴き有難うございました。行間が詰まり、字も小さくなってしまいました。多少読みにくいと思います。御容赦ください。

「遵義の桜 咲いて100年」から「遵義の桜 さらなる開花」現在の標語です。

わが母校からは教育界をはじめ多方面で御活躍の諸先輩多数が輩出されています。今後その様子も掲載したいと思えます。

御寄稿、御紹介をお願いいたします。

- 上野滋子 (東2) ・ 松村楊江 (膳10) ・ 山田 勲 (膳11)
- 東郷重明 (膳15) ・ 卯田重子 (膳16) ・ 藤原陽子 (膳16)
- 岡澤則子 (膳26) ・ 堀井美香 (膳33) ・ 奥村弘史 (総務)
- 井上正雄 (総務) ・ 小竹朋子 (総務)